

2012年11月8日、9日の二日間にわたり、
長崎で開催された**第57回日本生殖医学会学術講演会・総会**にて、当院での研究成果の発表を行いました。

今回の発表では、

「ART 反復不成功例において、メラトニンは成熟障害、胚質を改善し、妊娠率を増加させる」という題目で、ART 反復不成功例における、メラトニンの有効性について発表させていただきました。

メラトニンとは、松果体より分泌され、睡眠に関係しているホルモンです。
また、メラトニンには抗酸化作用があり、卵巣内での卵胞発育時に受ける酸化ストレスを防御する働きがあることが知られており、卵成熟率の低い卵胞液中のメラトニン濃度は低いという報告もあります。

当院での ART 反復不成功例において、メラトニン投与後で 8 例が妊娠に至っており、**卵の成熟障害、胚質不良例に対するメラトニン投与は有効である**ことがわかりました。

学会に参加し、不妊治療現場における最新の知識をさらに増やすことができ、自身の知識と意識向上につながる良い刺激になりました。

今後も患者様にとって有効な治療方法を研究できるように努めたいと思います。

また、余った時間で長崎観光をし、美味しいものもたくさん食べ、日々の疲れを癒すこともでき、良い思い出になる学会参加になりました。

培養士 上田 鈴